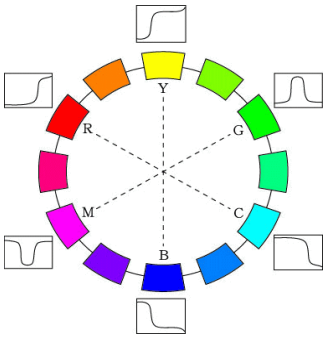
色彩についての講座

土屋　政夫

第四回　■配色について

配色は色の組み合わせです。色環上で数色の角度が、色調の性質を左右します。色調も音楽に於ける和音のようなものがあります。音も光も波ですので、波の重なり方で共鳴したり、不協和音を出したりします。

前回と同じ色環を掲載します。色毎の角度に注視して下さい。



色　環

30°配色 60°配色 180°補色は頭に入っていると便利です。

色彩調和論だと二色配色や三色配色、完全四色などの角度や調和を語るのですが、ここでは絵を描く立場に立って話します。

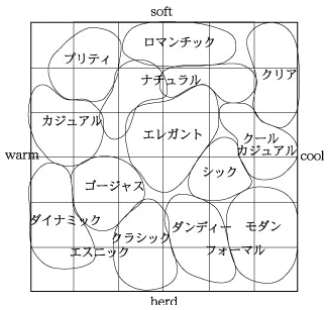
描画の計画にあたりテーマに沿った主調色を決めます。この主調色は画面全体に使用することになります。それに対する補色や近似補色を見極めます。ここが重要です。客体色は主調色や補色から６０度の色で賑やかさを出します（無くても無論可）主調色に変化を付けるのは左右３０度の近似色です。

諧調を付けたり、シャドー部を描くには、補色や近似補色を混ぜて描いていきます。補色の混色は混色量の違いで、彩度と明度は落ちますが、様々な色相が出て変化と深み増します。

以上は決まり事ではなくヒントです。最後は作家の感性です。

繰り返しになりますが、主調色と補色は必ず把握しておいて下さい。補色を混色せずに並べて配置するとお互いに強め合います。主体部などを強調したい時にこの手法を使います。逆効果でどぎつくハレーションを起こすこともあります。その対処方は二色の間に無彩色を配置し緩衝地帯を入れます。

補色の混色は、前述のいいことばかりではなく、濁りに繋がることを追記しておきます。次はカラーイメージスケールです



カラーイメージスケール

情感を表す言葉と、それに対応する配色群です

これは配色と言葉の持つイメージを関連付けたものです。横軸に暖かい↓冷たい。縦軸に柔らかい↓固いで色調を配し表しています。例えば暖かく柔らかな色調は「プリティー」な感じの色調になるということです。一般にパステルカラーと呼ばれているものに近く、子供向けの製品に使用することが多いです。

デザインの世界ではターゲットを絞る為にこれをよく使います。絵画でも感情表現のヒントとして使うには有効でしょう。特に抽象画や静物画は個有色を無視して色彩計画を立てる事が出来るからです。

次回は■混色についてお話します。

会員近況

楽しく描こう

岩井謙詞

２００４年12月、定年退職してようやく絵と向き合う夢が見え始め、あれこれ暗中模索の未作品を手掛けられるようになりました。そのうちどこかの公募展にと考えインターネットで多くの公募展を検索の結果、新日美展が目に入り規約書を読みその理念に同感し、さっそく(元事務局長、現在の代表森屋様に電話をかけ公募展の詳細について問い合わさせていただきました。森屋様からは親切丁寧な説明をして頂き大変温かみのある会だと感じ出品をさせて頂くことになりました。その後3年目に準会員のご推挙をいただき誠に有難く嬉しく思っております。

これまで何回となく裏磐梯の風雪に耐え抜いた存在感と神秘的な風景に魅せられ描いていました。今年の出品作品もこの風景に会いに行った時、なぜか幼木に強い印象を受けました。人知を超えた自然のこれら風景の姿を通してのモチーフとなりました。作品を書き終えるまでは、制作するにあたりキャンバスに向かっても集中出来ず、思うように描けませんでした。描いたり消したり繰り返しながら搬入日ギリギリまで仕上げにかかっていました。遠近感が上手く描き込めなかった力不足が残念でした。

これからも試行錯誤をしながら頑張って描いていこうと思うと共に　自分の思い」に見てくださった方が、ほんの少しでも心を動かして頂ければ本望です。これからも、さらに努力を重ね、嬉しさや驚きやその時の気持ちを素直に、楽しみながら表現して行けたならばと思っています。

岩井さんの40回展出展作

色鉛筆画に集中

佐藤正美

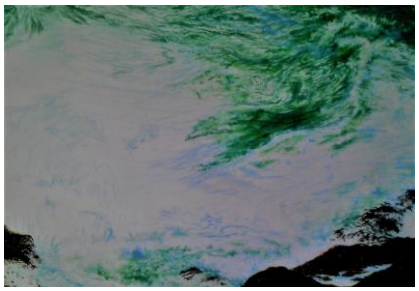
私は現在色鉛筆による絵を制作しています。落書きクラブ」という会で、講師は保坂先生に師事。以前は油絵を少しやっておりました。4号、6号各10点ぐらいでした。仕上げにだいぶ時間がかかり大変でした。妻や子供から油の匂いが臭い、またベランダで描いていると近所から苦情が来るので止めてほしいなど、いつも小言ばかり聞いておりました。

一昨年の7月に友人の村田さんから　色鉛筆による絵」聞かされて，早速教室へ見にいったところ先生はじめ会のみんなが楽しく制作しており雰囲気が良かったので、早々に入会しました。昨年、新日本美術協会の桜井様から保坂先生を通して、東京都美術館で新日美展が開催されるので出品してみないか」とのお誘いがありました。スケッチブックに描いてあった　波」の作品を10号大の用紙に描き写し出品させて頂きました。

４人で東京都美術館へ搬入に行き、多くの作品が５０号、１００号と大きかったのでちょっと恥ずかしい様な気持ちでした。

新日本美協会から　入選」とのことでしたので友人同志で喜び合い、展示会場へは何度も見に行きました。自分の絵の評価もして頂き本当に有難く思っております。

私の作品は風景画が多く、山や川に車で出かけスケッチを多くやり写真も撮るようにして、家に帰ってから仕上げるようにしています。現在冬景色に挑戦中です。いろいろ描いて展示会で発表出来る様に頑張りたく思います。色鉛筆画が今後多くの人に好まれ増えていく様に自分としても広めたく思います。今後ともよろしくお願い致します。



40回新日美展出品「波」の制作途中